



IIPS

平和研講演会シリーズ 2004

2004 IIPS Lecture Series

“国際社会の安定と我が国の進むべき道—地球規模問題への取り組み”

駐日ドイツ国大使ヘンリク・シュミーゲロー閣下

「ドイツの外交政策と日独協力」

2005年1月26日 於:キャピトル東急

世界平和研究所は、日本財団の協賛を受け、2005年1月26日、キャピトル東急ホテルにおいて、ヘンリク・シュミーゲロー駐日ドイツ大使による「ドイツの外交政策と日独協力(German Foreign Policy & German-Japanese Cooperation)」に関する講演を開催した。

講演の冒頭、シュミーゲロー大使は、先般のスマトラ地震および津波による犠牲者に対する哀悼の意を表した上で、被害に対し国際社会が示した強い連帯と協調関係は、国際紛争解決などその他分野



における国際協調のあり方についても強い方向性と示唆を与えるものであったと指摘し、さらに以下のように続けた。

日独両国の外交を理解する上で重要なことは、両国が多国間主義を標榜していることである。現在の国際社会が内包する問題は単独のものは少なく、その多くは相互に強い関係を有しているため、米

国のような超大国といえども単独での解決を困難としている。従って、日独両国の基本姿勢は正しい道を行くものといえよう。

むしろ、イラク問題などを典型に国連にも不調和が生じてくるのだが、国連は依然として国際ルール策定の最も重要な存在であり、そのために国連安保理の改革も検討されているわけであるから、この点において日独両国は共通する関心を有している。

また、こうした役割に対し、過去、日独両国は似たような障害を有してきたわけだが、かつてカントが民主主義国家同士には



この講演会は日本財団の助成事業により行っております。



日本財団
The Nippon Foundation

戦争はないと示唆したように、両国は国際社会における民主主義の一層の拡大を通じ、世界に大きな貢献を果たすことが可能であろう。

この講演会は日本財団の助成事業により行っております。

